

表題	黒毛和種の種雄牛候補「隆系秀」の特性	機関	農業研究センター 畜産研究所
概要： 黒毛和種種雄牛候補「隆系秀」は間接検定の結果から、脂肪交雑（BMS）が2.5と優れ、枝肉重量、ロース芯面積、バラ厚はやや小さいものの皮下脂肪が薄く、精肉歩留に優れていると推定された。			

研究のねらい

黒毛和種の育種改良において、直接検定で選抜された種雄牛候補の後代牛の肥育および枝肉成績によって、その遺伝的能力を推定するための間接検定を実施し、優秀な種雄牛を選抜する。

研究の成果

黒毛和種種雄牛候補「隆系秀」の後代牛7頭（すべて去勢牛）を使って間接検定を実施したところ次のような成績であった。

なお、肥育期間は364日、終了時月齢は21ヶ月齢であった。

< 検定種雄牛 >

隆系秀 { 父方：隆桜（黒高905） - 隆美（黒育161）
母方：第4ほしひろえ（黒原626958） - 系秀（黒高852）

1. 脂肪交雑（BMS）は2.5であり、本県で実施した中では歴代2位と優れていた。
2. 枝肉重量 340kg、ロース芯面積 45 cm²、バラ厚 5.6 cmとやや小さめであったが、皮下脂肪 1.9 cmと薄く、精肉歩留の目安である歩留基準値は73.1%と優れていた。
3. 枝肉格付は、「A - 5」2頭、「A - 4」2頭、「A - 3」3頭と良好であった。
4. 以上のことから、肉量の面ではやや物足りないものの、肉牛で現在、最も価格に影響を及ぼしている肉質（脂肪交雑）については良好な遺伝的能力を持つと推察された。

普及上の留意点

1. 間接検定牛の終了時体重があまり大きくなかったので、大きめの繁殖雌牛に交配すること。
2. 「隆系秀」は牛13因子欠損症という遺伝病のキャリアであるので、繁殖雌牛でこの因子を持っている可能性がある場合は交配をさけること。



写真 1 隆系秀

表 1 間接検定調査牛の概略

番号	名号	母方の血統			月 齢		体 重		D G
		母	母の父	母の祖父	開始	終了	開始	終了	
31	晴桜	ともえ	糸晴	奥高	8.5	20.5	205	456	0.69
33	賢隆	第2みさこ	賢深	糸光	8.8	20.8	249	528	0.77
34	栄	よしきた	北国7の8	神高福	8.8	20.8	199	492	0.80
35	糸隆	第2といね	紋次郎	糸福	9.1	21.1	246	577	0.91
36	照隆	てるさち	糸藤	俊美土井	9.3	21.3	299	586	0.79
37	糸春	はるな	糸藤	谷秋	9.3	21.3	219	570	0.96
38	清隆	きよみ3	糸竜	徳花	9.3	21.3	266	624	0.98
		平均			9.0	21.0	240	548	0.84

表 2 枝肉成績

番号	と前 体 重 (kg)	枝 肉 重 量 (kg)	B M S	等級	ロース 芯面積 (cm ²)	バラ 厚 (cm)	皮 下 脂 肪 (cm)	歩 留 基準値	枝 肉 格 付
31	433	281.5	2 ⁺	4	38	5.1	1.8	72.6	A - 3
33	503	321.5	2 ⁺	5	41	5.2	2.0	72.4	A - 4
34	471	299.5	2	4	40	5.5	1.8	72.9	A - 3
35	549	352.5	4	5	53	5.4	1.3	74.3	A - 5
36	563	367.0	2 ⁺	5	50	6.0	1.9	73.6	A - 4
37	546	349.0	2	4	42	5.9	2.0	72.7	A - 3
38	591	390.5	3	5	51	5.9	2.3	73.0	A - 5
平均	522.3	337.4	2.5	4.6	45	5.6	1.9	73.1	

注) 検定期間 平成11年1月27日～平成12年1月26日
枝肉調査日 平成12年1月31日